



“よねやま”から広がる新しい世界 ⑮

## 縁と仲間がつくる“和”の心



津南 R C  
(第 2630 地区 三重県)

カウンセラー  
佐々木 喬さん

### クラブ全員で応援して得たもの

鄭珉昊君チョンミンホをお世話したのは、5年前。それまで、クラブでは8人の米山奨学生を受け入れましたが、韓国人は鄭君が初めてでした。私もカウンセラーは初体験の上、身近に韓国人と接した経験もなく、全く知識がなかったので、韓国の歴史や社会、生活などの本を何冊か買って、予習に努めました。

私がカウンセラーとしてまず考えたのは、従来以上に“クラブで”受け入れてあげたい、ということです。それまでは奨学生とカウンセラーという限られた関係での交流になりがちで、奨学期間後は音信不通になる奨学生も多かったので、彼のためにもそうならないようにしなくては、と思いました。それで、鄭君にもネームプレートをつくり、例会では毎回、あまり話したことの無い人のそばに座ってもらうようにして、全員と交流を図れるようにしました。また、米山奨学生には毎月の第一例会に来てもらうのが通例でしたが、ゆっくり話す時間が取れるよう、彼には第二例会に来てもらうようにしました。

鄭君は本当にまじめな学生で、米山奨学金のおかげで研究に没頭できることを何よりも喜び、感謝していました。そんな研究一筋の彼が、われわれとの絆をどのようにつくり、保ってくれるのか、最初は少し心配でしたが、彼には「間接経験より直接経験。何でも自分で経験して物事を判断しなければ」という持論があり、忙しい中でも進んで交流してくれたと思います。

彼が研究に打ち込んだ結果、博士号を取得できたこと、さらに、国に帰って研究を継続し、世の中のために役立

てる仕事に就けたことを、われわれも皆で喜びました。また、彼を応援することで、「近くて遠い国」が身近になったのも確かです。私自身、カウンセラーをやった良かったのは、「韓国に親しい友人がいる」と言えるようになったことです。話のできる相手が一人でも向こうにいるのは心強いですし、そうやって親しみのある人が増えれば、今後の関係はもっと良くなると思います。

### 仲間とともに懸け橋に

鄭君の送別会では、会員一人ひとりが激励の言葉をかけ、「交流を絶やさないで」「まめに連絡し合って」と、いろいろ注文をつけましたが、彼はその思いに誠実に応えてくれていると思います。

彼には帰国前から、ソウルの米山学友会に顔を出すよう勧めました。ロータリーとの絆を保ち、日本との懸け橋になるには、仲間と一緒にやっていくのが良い方法だと思ったからです。帰国後しばらくして「学友会に入りました」と報告をもらった時には、肩の荷が下りた気がしました。

彼の話では、今度、その学友会を中心に、ソウルでロータリー衛星クラブを創立したのだとか。彼も中心メンバーの一人として参画したと聞きました。彼の消息はできるだけ『週報』で報告していますが、このニュースには皆、驚いていました。今後、彼が仕事の上で研究の成果を実らせることはもちろん、ロータリーでも仲間を増やし、さらに活躍してくれることを心から期待しています。



鄭珉昊君(前列真ん中)を囲んで

母国に帰国した米山学友たちは教育や研究、ビジネスなど、各分野で活躍しています。韓国に米山学友会が創立されたのは1989年、前回のソウル国際大会がきっかけでした。今月下旬に開催されるソウル国際大会でも、同学友会は米山関連のイベントに協力し、日本からの参加者との交流を楽しみにしています。今回はその学友会のメンバーとして活躍する鄭珉昊<sup>チョンミンホ</sup>さん、カウンセラーの佐々木喬さんに、お互いの交流について語っていただきました。



米山学友  
チョン ミンホ  
鄭 珉昊 さん

出身：韓国  
奨学期間：2011 - 12  
学校名：三重大学大学院

### 縁を大事にして“和”につなげる

誰も知り合いがない環境で、新たなことに挑戦したいと、三重大学生物資源学部で留学しました。私はそこで、素晴らしい指導教授と、植物中に含まれる「リゲニン」という物質に出会いました。今は、韓国企業のバイオテクノロジー部門の研究所で、「リゲニン」の製品化に関わる仕事をしています。

米山奨学生になったのは、博士課程最後の1年間です。それ以前はほかの奨学金をもらっていましたが、米山のようにいろいろな人と関わる機会はありませんでした。学位取得後、帰国することになった私のために、津南ロータリークラブの皆さんが温かい送別会を開いてくれたことは、忘れられない思い出です。カウンセラーの佐々木喬さんからは今も時々、メールをいただきます。一つひとつの縁を大事にする姿勢に感動し、私も見習うべきだと感じています。人と人との縁

を大事にすることが“和”につながるのだと、佐々木さんが身をもって教えてくれています。

### 学友会の活性化を目指して

「そろそろ学友会に参加しては？」と、佐々木さんから勧められたこともあり、帰国して2年後に韓国学友会の集まりに参加しました。最初は思ったよりも人が少ないと感じましたが、全員、日本に留学した共通点があり、すぐに楽しい“和”になりました。私たちは今年3月、韓国学友会を母体とした韓国米山セソウル・ロータリー衛星クラブを創立しました。ロータリーとの交流で学んだ“和”や“奉仕の精神”を広げていくためには、ロータリークラブを創立するのが最善の道ではないかと考えたからです。ソウル国際大会にも協力し、各国の学友や日本からの参加者と交流できるのを楽しみにしています。このような活動を通じ、学友会をもっと活性化して“和”を広げ、後輩たちにもつなげていくよう頑張りたいと思います。

#### ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または“よねやまだより”についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



### タイ米山学友会が総会を開催 —— 新役員が決定！

3月13日、タイ米山学友会の総会がバンコク市内で開催され、学友19人のほか、ビチャイ・ラタクル元国際ロータリー会長、日本のロータリアンら計33人が出席。2年に1度の役員改選では、新会長のシュティカーン・テブサンさん（1993 - 95 / 新大阪RC）をはじめ、副会長と理事・幹事が選任されました。

タイ米山学友会は2012年に創立後、海岸清掃や児童養護施設への訪問、大学生への奨学金支援などを行ってきました。新幹事のワシン・テイシャシャイニランさん（2011 - 12 / 東京清瀬RC）は「今後も仲間を増やし、全員で社会に役立つ活動を楽しんで実施していきたい」と、語ってくれました。



タイ米山学友会で総会を開催